

# 仮想通貨の将来

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1220565 森 敬太

指導教員 渡邊 法美

## 【研究背景】

仮想通貨は本来持っている仮想通貨の性能を見られることが少ない印象である。現在の日本では仮想通貨は実生活でまだ利用されるケースが少ないため、仮想通貨がどのようなものなのかを知らない人が多いと考えられる。仮想通貨には、世界共通通貨としての役割から、通貨以外の役割を持つものまで様々なものがある。仮想通貨は、国が発行する法定通貨にも影響を及ぼすほど世界から注目されている。

## 【研究目的】

本研究では、CBDC が実装されることが決定したことで、仮想通貨が将来どのように利用されるかについて考察することを目的とする。CBDC とは中央銀行が発行するデジタル通貨のことである。したがって、仮想通貨の歴史についてまず考えていく。またビットコインと仮想通貨で決済手段以外の目的で作られた仮想通貨を調べ、今後どのように発展するかを考察する。

## 【調査・分析】

ビットコインの歴史やブロックチェーン技術、ビットコインが実際にどのように利用されているか、そして今ビットコインが抱えているスケーラビリティ問題、CBDC、筆者が注目するアルトコイン Polkadot について文献調査を行う。

## 【分析結果】

サトシ・ナカモトはビットコインで第三者機関に管理されない通貨として仕組みを作ろうとしたが、スケーラビリティ問題やCBDCの誕生によって、キプロス金融危機により資産の逃避先としての地位を確立した。Polkadotは通貨としてだけでなく、新しいインターネットインフラとして注目されている。

## 【考察・結論】

ビットコインは金よりも利便性があり、今後金と同等の資産となる可能性がある。Polkadotによって仮想通貨同士を相互運用させ、第三者機関に依存しないプラットフォームを提供することでサトシ・ナカモトが目指した世界に近づいている。